

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078800101		
法人名	社会福祉法人 やまと医正会		
事業所名	グループホーム敬和苑		
所在地	福岡県柳川市大和町栄220-2 (電話) 0944-76-5555		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 28 日	評価結果確定日	平成 30 年 1 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念として「安全で安心できるケア、温かいまなざし・言葉のケア、敬う心で和やかな暮らしを提供すること」と掲げ、毎日利用者様に、楽しく笑顔で安心できるグループホームを目指して、スタッフ一丸となり、より良いケアに繋がるよう努めています。また、各サービス事業所や、地域の方々との連携を図り、スムーズなサービス提供を心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 11 月 15 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は同法人の福祉施設に隣接し、近くには中学校や市役所庁舎などがある。近隣には民家があり、施設へ作品制作や軽体操などのボランティアにも来られたり、施設の行事の時に顔を合わせる機会も多く、顔なじみの関係を築くことができている。事業所の建物は平屋作りで、各居室ごと扉の一部を色分けし利用者に自室が分かりやすいように工夫されている。ウッドデッキには桜の木が2本あり、春には花見を楽しまれている。日当たりも良く、天気の良い日はひなたぼっこをされたり、リビングの窓際には自然と皆が寄ってこられ、明るく温かい雰囲気がある。リビングの壁には行事の写真や利用者の作品などが掲示され、面会者を楽しませている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝・夕の申し送り終了時に、グループホーム理念及び、基本理念を唱和し、スタッフ全員が一丸となり、同じ気持ちで介護を提供できるように心掛けている。	事業所独自の理念があり、朝礼時に唱和を行い、その都度振り返り、理念の実践に向け言葉掛けに取り組んでいる。家庭的な雰囲気でも過ごせるようにと利用者へ向き合い、関係を築き、地域とのつながりも実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1～2か月に1度慰問はある。2か月に1回地域運営推進会議を開き、地域の方々と交流会を深めている。	事業所には保育園や小学生との交流があり中学生が職場体験にも来ている。忘年会や夏祭りに地域の方が参加され、一緒に食事やおやつを食べたり、ゲームをして楽しんでいる。地域の方が草取りにも来て交流を行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学校の職場体験の受け入れがあり、認知症高齢者への対応や、日々の生活を見て、学んでもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議には、利用者様、ご家族、区長、民生委員、老人会、柳川市より出席していただき、グループホームでの行事等の報告をしている。また、参加者からの貴重なご意見や質問をいただき、サービス向上、改善につなげるように努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催されている。事業所からは利用者の介護度や入退所状況、入院や退院状況、行事の報告等を行い、参加者からは訪問看護からの状況報告の希望があったり、成年後見制度に関して質問がある。それに対して、事業所からの報告や市の担当者からの説明を行い、そこでの意見をサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に市の福祉課や地域包括支援センターの方にご出席していただき、質問等に対して、アドバイス・助言をいただき、より良いサービス提供に向けて取り組んでいる。	日頃から高齢者福祉課や地域包括支援センターの担当者とは、入所の件や見学の件で連絡したり、相談したり連携を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、日常のケアのなかで、スタッフ全員が身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束に関するマニュアルやテキストがあり、内部や外部での研修を行っている。玄関は日中は施錠し、外出傾向がある利用者に対しては、見守りや付き添いの対応を行っている。中庭への出入りは施錠せず、自由に出入りできるようにしており、利用者が出られる際は職員が付き添っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どういふ介護が虐待に当てはまるか、日々のケアの中で、常に心掛けて介護を行っている。また、スタッフ間でも注意し合い、日々の介護をおこなっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域運営推進会議において、成年後見制度について学んでいる。	利用者の家族への権利擁護に関する説明は、契約時に行っている。運営推進会議の時に一部の職員は研修を受けている。研修資料があり、法人全体の研修で全職員対象の研修も行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、その内容を説明し、理解、納得したうえで署名して頂いている。利用者様に身体面での変化があった場合、家族に連絡し、その後の意向、要望を確認し、対応行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のスタッフ間での寮母会議で、疑問・改善点を検討し、話合った上で、業務に反映させている。また、適宜状況報告、意見交換を行っている。	利用者とは入浴時など個別に意見や思いを聴取し、家族は運営推進会議に参加して意見を述べる機会がある。会議の場で言いにくいことは個別に対応し、利用者や家族の要望は全職員が共有し運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同敷地内の事業所で、定期的に業務会議や、各委員会を開き、現在の状況や、業務報告・意見交換を行っている。	自己評価は職員全員で取り組んでいる。管理者は日頃から職員へこまめに声かけしたり、寮母会議の時に意見や要望を聞く機会を設けたり、個人面談を行い、働きやすい職場づくりに反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、グループ内の全職員が集合し、全体朝礼があり、そこで、理事長より、訓示を受ける。また、勉強会も開催され、近隣3施設の職員が一同に研修を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく採用されている。 20～60代までの職員が、意見を出し合い、それぞれの長所を尊重しながら介護にあたっている。	職員の採用は本部人事職員で行っているが、採用条件は年齢や性別など制限は行っていない。管理者は、職員が自分の判断で行動し、能力を発揮し、働きやすい職場環境づくりに配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	敬和苑グループで、2か月に1回勉強会が開催され、参加している。	研修のテキストはあり、内部や外部の研修に参加し、利用者に対する人権を尊重した取り組みが行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜、適性に応じ、研修を受けている。 また、2か月に1回勉強会が開催されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域近隣のホームとの交流の機会はまだないが、法人内のグループとの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入所された時に、ご本人、ご家族からの聞き取りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた段階で、ご家族の気持ち、要望を傾聴し、安心感を持っていただくよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の家族や入居前に利用しているサービス事業者から、情報収集し、安心していただけるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の会話、家族から話を聞き、好きな事、得意な事を聞き取り把握し、それを活かして楽しく生活ができるように支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、状況を報告し、場合によっては、家族の協力を得るようにしている。日頃から、家族の意見をうかがえるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方、知人が面会に来られた時は、ゆっくりと過ごしていただけるよう配慮し、また来ていただける雰囲気作りに努めている。	管理者や職員は利用者の馴染みの人や場所などを把握し、月に2～3度友人が面会にくるなど関係が維持できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し、スタッフが中に入りながら、利用者様が安心して過ごせる環境作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で、退所された場合、ご家族が来所され今後のことを相談された場合は、状況に応じて、説明を行っている。また、関連の施設や、入院先にも相談を受けていることを伝える旨を説明している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、一人一人の意見や要望を聞き、把握している。また、意思表示が困難な場合でも、表情や、動きの観察に努め、スタッフ間でも情報共有に努めている。	職員は日々の関わりのなかで声を掛け、本人・家族の生活に対する意向や、思いの把握に努めている。本人から若い頃の話の聞いたり、「穏やかに暮らしたい」「正月やお盆に帰りたい」など外出支援に努めている。また困難な場合は生活歴や趣味などを参考に本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様入所時に、生活歴や、好きなこと、得意なことなどの聞き取りを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者様の生活リズムを把握し、好きな事、得意な事を提供できるよう努めている。また、利用者様の変化があった場合、些細なことでも口頭や文書で情報交換を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、ご本人・ご家族に意向を聞き、日常生活を把握しているスタッフの意見・情報から課題・目標を設定している。定期的な見直しの際には、新たな課題がないか確認している。	本人・家族に希望や意向を聞き、職員の気づきやアイデアを反映しながら、本人本位のその時点に合った、具体的な介護計画を作成している。モニタリングを行い6ヶ月毎に見直す他、利用者の状態変化や、状況に応じて随時見直している。家族に報告しサイン・押印を貰っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言動・動き・表情等を具体的に記入するようにしている。記録を共有し、今後のケアの見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に、特養・デイ・在介等の事業所を運営しており、情報を共有し合い、必要に応じて、相談にのってもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回ボランティアの方が来られ、季節ごとの壁掛けを作成したり、歌を歌って楽しく過ごされている。中学生の職場体験の受け入れもすすんで行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の協力医療機関（内科・歯科）をかかりつけとする場合は、説明をして同意を得ている。入居前からの認知症専門医などを受診する意向があれば、そちらを優先し、家族や医療機関に情報提供を行っている。	利用開始時に協力医療機関について説明しかかりつけ医として希望する場合は同意を得ている。通院は家族などと、介助・情報伝達の方法などについて合意しているが、家族などの都合や利用者の状況によっては柔軟に対応している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師の配置はないが、同敷地内の看護職員に状況を報告し、アドバイスを受けている。また、みやま訪問看護と連携し、毎週月曜日に、苑にきていただき、診ていただいている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院になった場合、入院先にホーム内での状況をつたえている。また、入院中の状況を家族・病院と連携をとりながら、スムーズな退院に繋がられるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、状況に応じて家族への説明を行い、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と連携をとっている。また、みやま市の訪問看護ステーションと契約を交わし、重度化した場合の対応を行っている。	重度化・終末期ケアの対応指針があり、明文化している。利用者・家族などの意向を大切にしながら、本人・家族・かかりつけ医・職員で話し合って合意形成を図り、事業所が対応し得る最大の支援方法について折に触れて説明を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時は、家族、かかりつけ医に連絡し、家族の意向を確認し、対応している。応急手当や救急時については、マニュアルを作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回同敷地内の特養と合同で、避難訓練を行い、利用者の身体機能など状況に応じた避難対応を検討している。また、同一敷地内の特養と協力し、事業所内に必要物品を準備する。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。夜間設定も母体法人と合同で実施している。避難方法・連絡方法は職員間で共有している。地域住民へ呼びかけを行っているが参加は得てない。非常用食料、飲料水、備品は併設の母体法人特養厨房に整備している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを尊重し、適宜声掛けを行い、プライバシーにも配慮している。来ていない時は、スタッフ間で、注意し合っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に心掛けている。管理者は内部研修やミーティング時に話し合いを持ち意識向上を図り、さり気ないケアの実践に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人に意向や要望を表せず、思いを伝えるできない場合でも、ちょっとした行動時やや、本人の言動から、自己決定につなげられるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態を把握し、ペースをつかむことで安心して生活できる環境作りを支援している。気がのらない時は、無理に言わずいつでもできるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪が定期てきに来所している。馴染みの理美容院がある方は、外出を兼ね家族が来所される。入浴時に洋服選びを一緒にすることもある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時や、日常生活の中で、好き嫌い、味付けの好みを把握し、食事提供を行っている。また、一緒に食事の楽しみ、片付けを協力していただいている。	職員と利用者は一緒に準備、後片付けを行っている。同じものを同じテーブルで会話を交わし見守りながら食し、雰囲気を楽しめるようにしている。献立にも工夫があり栄養バランス・彩り・好みにも配慮し利用者は全員完食している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、偏らないようにメニューを作成している。食事形態も把握したうえで柔軟に提供している。水分は、3回の食事の時を含め6～7回提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事は、口腔ケアを行い、義歯の消毒も定期的に行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄につながるようにケアしている。利用者様の動きや、間隔をみて、スタッフが声掛けし、訴えがある時は、速やかに対応している。	排泄チェック表を作成している。利用者の排泄パターンを把握し、さりげなく支援している。尿意のない利用者もトイレで排泄できるよう時間を見計らって誘導し、自立に向けた支援を行っている。パット類の大きさ・種類など家族と相談している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操と全身体操を行っている。便秘の方には、食物繊維や、乳製品を提供時もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の身体状況、体調に合わせて入浴していただいている。拒否がある場合には、時間をずらして声掛けを行ったり、曜日を変更して対応している。また、夏場は、日数を増やし、清潔保持に努めている。	週3回（月水金、火木土）と、大まかな設定はあるが、利用者の希望などに合わせて、柔軟に対応している。入浴時は「便が出ない」といった個人的な悩みなど相談出来る場にもなっている。入浴拒否者には、人・時間を変えタイミングを図るなどの工夫をし、一人ひとりに添った支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやを把握し、傍についたり、して入眠の援助を行っている。睡眠時間が十分でない方は、昼夜逆転にならない程度で、ベット臥床したりしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や薬手帳は、スタッフがいつでも見ることができるようになっている。薬の変更や追加時は、申し送りをして、服用後の変化があれば、担当医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなで一緒に歌を歌ったり、テレビで、相撲観戦をしたり、一緒に楽しめる時間作りを提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや、散歩を実施し、戸外へ出かけることで、気分転換を図っていただいている。家族との外出は、スムーズに出掛けられるように支援している。	利用者の体調や天気に配慮し、ウッドデッキでの外気浴や近くの景色を眺め楽しんでもらう。また家族と一緒に庭の散歩や外食など家族の協力を得ている。事業所でのドライブ計画では5月、荒尾のグリーンランドへ出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自身で、お金を管理されている方もいる。買い物の希望時や、必要物品がある時は、適宜対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、知人からの電話・郵便物は、その都度取り次いでいる。困難な利用者様の場合は、スタッフが預かり、家族に連絡したうえで、お渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからウッドデッキ、中庭へ出ることができるので、天気がいい日は、ウッドデッキに出て、花や、木々を見て、季節感を感じていただいている。また、窓際で、ひなたぼっこされる場合もある。温湿度計を設置しており、居心地良く過ごせるように支援している。	明るい共用空間には、ソファ、テーブル、椅子が程よく配置され、ゆっくりくつろげる場所になっている。壁面には、月1回定期的に見えるボランティアの方たちと一緒に制作した貼り絵や、柳川市に伝わる風習さげもん飾りで、温かい空間作りになっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブルの席に座り、一人一人が思うように過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの品を置くことで、居心地良く過ごせるよう支援している。季節の変わり目は、寝具、衣類の入れ替えを行い、安心、快適に過ごせるよう支援している。	ベッドは木造りを使用、壁には家族の写真、イベント時の利用者の写真、自分で作成したさげもん飾りに囲まれ、安らぎを得られるような馴染みの物を持ち込み、その人らしい居室づくりになっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレには、手すりが設置されており、利用者様が移動時利用されている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝・夕の申し送り終了時に、グループホーム理念及び、基本理念を唱和し、スタッフ全員が一丸となって、同じ気持ちで介護提供できるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1～2か月に1度慰問はあるが、日常的な交流はない。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の職場体験の受け入れがあり、認知症高齢者への対応や日々の生活を見て、学んでもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議には、利用者様、ご家族、民生委員、区長、老人会、柳川市より、出席いただき、グループホームでの行事等の報告を行っている。また、参加者からのご意見・質問をいただき、サービス向上・改善に繋がるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市の福祉課や、地域包括支援センターの方に出席していただき、質問等に対してのアドバイス・助言をいただき、より良いサービス提供に向けて取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、日常のケアの中で、スタッフ全員が身体拘束をしないケアを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どういふ介護が虐待に当てはまる、日々のケアの中で、常に心掛けて介護を行っている。また、スタッフ間でも、注意し合い、日々の介護を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2ヶ月に1回の地域運営推進会議の中で、成年後見制度について、学んでいる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、その内容を説明し、理解、納得したうえで、署名していただいている。利用者様に身体面での変化があった場合、家族に連絡し、その後の意向・要望を確認し、対応行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のスタッフ寮母会議で、疑問、改善点を検討し、話あったうえで、業務に反映させている。また、適宜、状態報告、意見交換を行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同敷地内の事業所で、定期的に業務会議や各委員会を開き、現在の状況や業務報告・意見交換を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、グループ内の全職員が集合し、全体朝礼があり、そこで理事長から、訓示を受ける。また、勉強会も年6回開催され、近隣3施設の職員が、一同に研修を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢・性別に関係なく採用されている。20～60代までの職員が、いけんを出し合い、それぞれの長所を尊重しながら、介護にあたっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	敬和苑グループで、2か月に1回勉強会が開催され、参加している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜、適性に応じ研修を受けている。また、2か月に1回勉強会が開催されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域近隣のホームとの交流はまだないが、法人内のグループとの交流は、ある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入所された時に、ご本人、ご家族からの聞き取りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた段階で、家族の気持ち、要望を聞き、安心感を持っていただくように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	利用者様の家族や、入居前に利用している サービス事業所から、情報収集し、安心して 生活していただけるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	ご本人の会話、家族から話を聞き、好きな 事、得意な事を聞き、把握し、それを活か して楽しく生活ができるよう支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の 絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に状況を報告し、場合によっては、 家族の協力を得るようにしている。日頃から 家族の意見をうかがえるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途 切れないよう、支援に努めている	近隣の方、知人が面会に来られた時は、ゆっ くりと過ごして頂ける様配慮し、また来てい ただける雰囲気作りに努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同 士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し、スタッフが中に入 りながら利用者様が安心して過ごせる環境作 りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	長期入院など退所された場合、家族が来所さ れ今後のことを相談された場合には、状況に 応じて、説明を行っている。また、関連の施 設や、入院先にも相談を受けていることを伝 える旨を説明している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、一人ひとりの意見や要望を聞き把握している。また、意思表示が困難な場合でも、表情や動きの観察に努め、スタッフ間でも情報共有に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様入所時に、生活歴や、好きなこと、得意なことなどの聞き取りを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者様の生活リズムを把握し、好きなこと、得意なことを提供できるよう努めている。また、利用者様の変化があった場合、些細なことでも口頭や文書で情報交換を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、本人、家族に意向をきき、日常生活を把握しているスタッフの意見、情報から、課題・目標を設定している。定期的な見直しの際には、新たな課題がないか確認している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言動、動き表情等を具体的に記入するようにしている。記録を共有し、今後のケアの見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に登用・デイ在介等の事業所を運営しており、情報を共有し合い、必要に応じて相談にのってもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回、ボランティアの方が来られ、季節ごとの壁かけを作成したり、歌を歌って楽しく過ごされている。中学生の職場体験の受け入れもすすんで行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の協力医療機関（内科・歯科）をかかりつけとする場合は説明をして、同意を得ている。入居前からの認知症専門医などを受診する意向があれば、そちらを優先し、家族や医療機関に情報提供を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師の配置はないが、同敷地内の看護職員に状況を報告し、アドバイスを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院になった場合、入院先にホーム内での状況を伝えている。また、入院中の状況を、家族・病院と連携をとりながら、スムーズな退院に繋がれるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合には、状況に応じて家族への説明を行い、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と連携をとっている。また、みやま市の訪問看護ステーションと契約を交わし、重症化した場合の対応を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時は、家族、かかりつけ医に連絡し、家族の意向を確認し、対応している。応急手当や、緊急時についてはマニュアルを作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、同敷地内の特養と合同で、避難訓練を行い、利用者の身体機能など状況に応じた避難対応を検討している。また、同一敷地内の特養と協力し、事業所内に必要物品を準備する。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを尊重し、適宜声掛けを行い、プライバシーにも配慮している。できていない時は、スタッフ間で、注意し合っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人に意向や要望を表せず、思いを伝えることができない場合でも、ちょっとした行動時や本人の言動から、自己決定につなげられるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態を把握し、ペースをつかむことで、安心して生活できる環境作りを支援している。気が向かない時は、無理に言わず、いつでも、できるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪が定期的に来所している。なじみの理美容院がある方は、外出を兼ね家族が来所される。入浴時に洋服選びを一緒にすることもある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時や、日常生活の中で、好き嫌いや味付けの好みを把握し、食事提供を行っている。また、一緒に食事を楽しみ、片付けを協力していただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、偏らないように、メニューを作成している。食事形態も把握したうえで柔軟に提供している。水分は、3回の食事の時を含め6～7回提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを行い、義歯の消毒も定期的に行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄につながるようケアしている。利用者様の動きや間隔を見てスタッフが声掛けし、訴えがある時は、速やかに対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操と全身体操を行っている。便秘の方には、食物繊維や乳製品を提供する場合もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	利用者様の身体状況、体調に合わせて入浴していただいている。拒否がある場合には、時間をずらして声掛けしたり、曜日を変更して対応している。また、夏場は、日数を増やし、清潔保持に努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握し、傍についたりして入眠の援助を行っている。睡眠時間が充分でない方には、昼夜逆転にならない程度で、ベット臥床したりしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や薬手帳は、スタッフが、いつでも見ることができるようにしている。薬の変更や、追加時は申し送りをし、服用後の変化があれば、担当医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなで歌を唄ったり、テレビで相撲観戦をしたり、一緒に楽しめる時間作りを提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩を実施し、戸外へ出掛けることで気分転換をはかっていただいている。家族との外出時はスムーズに出掛けられるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自身でお金を管理されている方もいる。買い物の希望時や必要物品がある時は適宜対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、知人からの電話・郵便物はその都度取り次いでいる。困難な利用者の場合は、スタッフで預かり、家族に連絡したうえで、お渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから、ウッドデッキ・中庭へ、出ることができるので、天気がいい日は、ウッドデッキへ出て、花や、木を見て季節を感じてもらったりしている。窓際で日向ぼっこされる場合もある。温湿度計を設置しており、心地よく過ごせるように支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや、テーブルの席に座り、一人ひとりが思うように過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や、馴染みの品を置くことで、居心地良く過ごせるように支援している。季節の変わり目は、寝具、衣類の入れ替えを行い、安心、快適に過ごせるよう支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレには、手すりが設置されており、利用者様が、移動時利用されている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない